

地域福祉の現場確認

令和8年3月23日 委員会資料

目次

【通いの場が生む地域のつながり】……P3～6

【地域の声からボランティアによる移動支援の取組開始へ】……P7～10

【「受け手」としても「支え手」としても活動しています】……P11～14

【宿題&お昼ご飯の会】……P15、16

【地域でつくる子どもの居場所】……P17～20

【民生委員一斉改選における候補者探し】……P21～23

【スマホのお悩み共有会】……P24

【健康体操】……P25、26

地域ではどんなことが起きているんだろう？

【通いの場が生む地域のつながり】 計画書 P48

R4・5時点

「赤ちゃんからお年寄りまでみんながお互いに知り合っている姿が理想の地域」と語るBさんは週に二度、高齢者の通いの場(サロン)を開催しています。

ここでは食事やコーヒーが楽しめ、専門職が健康相談にも応じます。Bさんは常に、誰かの役に立てることではないかという目線でいます。そんなBさんがサロンで昼食を作っていると、利用する人もお互いにコミュニケーションをとりながら、できる範囲でお手伝いをしています。料理が出来上がると女性の利用者は談笑しながら食事を楽しみ、男性の利用者は囲碁に夢中になりながら食事をし、それぞれの居心地の良いつながり方で楽しんでいきます。

高齢者の通いの場とは言いつつもBさんは「誰でもここへ来ていいし、好きな形で居ていい。」と言います。小さな子どもを連れた人、心に悩みを抱える人もここへ来て、Bさんやほかの利用者と空間、時間を共有します。常連さんの姿を見かけなければ、本人や知り合いであろう人へ連絡してみます。Bさんは誰もほっとけません。誰かとつながっている光景を暖かく見守るBさんの目が印象的です。



その後の状況は・・・？

地域ではどんなことが起きているんだろう？

最近の印象的な地域の出来事や困っていることは？

R6時点

- ・能登半島地震から避難されてきた女性が通ってくれていて楽しそうな様子。
- ・夏休み中に孫を連れてくる利用者が居て他の利用者がその子供に構っていて普段の雰囲気と違いが生まれて良かった。毎回や長時間だと利用者の居心地や体力的に大変だろうが、たまに1人来るのは刺激になる。
- ・この活動場所を使って地域の人とバザーを開催したら近所の子供に喜んでもらった。
- ・活動を後継者に引継ぎたいが、先細りになっていきそうな状態では譲りたくない。補助金等によるサポートやスタッフの確保など、ある程度長く安心して運営できる見通しが立つと良い。
- ・食材は自分の畑のものや差し入れもあるが、光熱水費の高騰がかなり負担。
- ・他に子ども分野の活動してみたいし、地域の現状にあった活動、理想が見えてきたが、体は一つだし年齢的にも厳しい。培ってきた経験が役に立つのであれば、地域活動を始めたい人に教えたりするのは可能。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

令和4・5年度と比べて良くなった、又は良くないと感じることは？

(ご自身の活動のこと、周辺の地域の様子など)

・サロンが広く認知されるようになったことで、市西部の住民からも利用の問合せがしばしばある。参加費(昼食代)より高いタクシー代を払って来てくださる方もいるが、交通の便の関係で利用を諦めざるを得ない方もいる。市全域での移動支援の取組が進むと良いなと感じる。

R7時点

活動の継続について感じることは？

(費用面、運営側として関わってくれる人、後継者など)

・運営費用については、ずっと持ち出しが続いている。自分は地域への恩返しと「やらなきゃ！」という気持ちで突き進んできたから後悔は無いが、そういった人間を支える仕組みは必要。

・活動をやってみたいという人はいるだろうが、費用面や場所の確保など敷居が高くて諦める人は多いはず。

・こういったサロンが市内各所に増えてほしい。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

担い手の発掘について大切だと思うことは？

(地域に求めること、行政や社協に求めること)

- ・地域活動を支える仕組みを行政が充実させるべき。こういった活動を行政は本当に必要とってくれているのだろうか。
- ・活動を始めたい人に対して、費用面、場所の確保などの最初のハードルを取り除いてあげてほしい。
- ・「ボランティアをしませんか。地域活動をしませんか。」では人は振り向かない。求める役割、内容を明確にPRすることで、自分が得意なこと、興味があることを結びつけ人を集めることが大切。

R7時点

その他、地域のことで印象に残っていることは？

- ・来れない状況が続いている利用者がある。他の利用者が心配している。心配し合える仲の人がいるというのは良いことだ。
- ・年を取ると身の回りのことに鈍感になってくる。ここでは、お互いの身だしなみや言動等も注意し合える。一人でいるとそういうことに気づけない。
- ・サロン活動以外にも、この施設が空いている時間は裁縫教室や英会話練習、地域行事等に解放している。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【地域の声からボランティアによる移動支援の取組開始へ】 計画書 P50

R4・5時点

東小学校区に住む方たちから「近くにスーパーやドラッグストア、病院がないので、車が運転できないと不便」、「コミュニティバスの本数が少ない」、「バスの乗り継ぎがスムーズにいかず、1時間以上待たないといけない」という困りごとが地区社会福祉協議会に寄せられました。

移動支援のための車両の試験運行会を行い、まずは長久手ニュータウン(岩作三ヶ峯)に絞って住民主体の助け合いによる仕組みづくりを目指すことに。民生委員や地区社協メンバー、ボランティアドライバー、ニュータウン住民、市役所、社会福祉協議会、CSWで定期的な話し合いを重ね、試験運行の内容が決定しました。その後もみんなで話し合い、ルートや時刻の見直しも行っています。

地域の困りごとに対し、同じ地域の住民さんによるお手伝いの輪が広がり始めました。

「便利になってよかった」「今までよりも早く家に帰れるようになった」「車内で、他の同乗者や運転ボランティアさんとの会話が生まれ、それも楽しい」「車内での皆さんの会話を聞きながら楽しく運転させていただいています」こんな嬉しいコメントが寄せられています。

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

CSWによると？

R6時点

- ・長久手ニュータウンの住民に限定して取組を始めたが、同様に困っている地区の高齢者の方の要望を受けて北熊の住民も対象に加えた。定期的にご利用する方はそれほど多くないが、運転免許を返納した方などが新たに利用登録するなど、登録人数、1回あたりの利用人数ともに少しずつ増えてきている。
- ・「1人で利用するのは抵抗がある」といった声を受け、毎週金曜日の定期運行に加えて、長久手ニュータウン、北熊、北浦の3地区でそれぞれ月1回「お買い物会」の実施を開始。利用者の意向で行先を決定し、運行を始めた。このお買い物会では、買物はもちろん、「近所の人と話しながらいき来をするのが楽しい」「定期的に皆さんと会えるのが嬉しい」という感想が多く寄せられている。運行していて感じるのは、買物の要望を満たすというよりも「移動する地域の集いの場」になっている。外出や誰かと話す機会にもなり、少なからず介護予防につながっているとも感じる。
- ・利用予約している方が予定の時間になっても来なかったため確認すると、前日に救急搬送されて入院していることが判明。高齢者の見守りの役割も果たしているとも感じている。
- ・持続可能な取組としていくためと、気兼ねなくご利用いただくため、利用者からガソリン代実費相当額をいただくことを開始。
- ・取組の周知をしてきた結果、認知度が上がり、他小校区や市外の方もボランティアとして活動中。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

民生委員・運転ボランティアによると？

R6時点

- ・会社の自己研鑽の研修期間を利用して参加している。まもなく研修期間が終了してしまうが、予定があれば引き続き活動を行いたい。
- ・ひきこもっている人をどうやって外に出そうかなという思いがあって何かできることはないだろうかとボランティアセンターを訪問した際に紹介されて活動するようになった。これをきっかけに認知症ボランティアにも参加するようになった。
- ・車が好きで車を使ったボランティアをしようと思っていたところ、広報で取組を知って参加するようになった。毎回利用する人が同じであり、もっと取組について周知していく必要があると思う。
- ・北熊のお買い物会は、必ずまずは喫茶店にモーニングに行き、その後に買い物を楽しむ。買い物の要望を満たすだけにはなっていない。参加者はおしゃべりをする機会を楽しんでおり、楽しかったので次回も行こうかなと言われている。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

現状は？

R7時点

利用者を支えているのは、変わらず運転ボランティアや民生委員さんの方々。運転ボランティアは現在8名で、40代、50代の現役世代が中心となり、大半は仕事を続けながら活動中。

自分より少し上の世代を支える中で、「一緒に歳をとっていこう」と仲間とサロンを立ち上げた方や、「歳をとっても自分の足で歩きたい」と目標を持つようになった方もいる。

また、ボランティアを通じて対等に話せる仲間と出会い、暮らしが豊かになったと感じている方もいて、支える側にもさまざまな気づきが生まれている。

利用者の生活を支える大切な役割を担うからこそ、活動を未来につなげるために、次の担い手を探していかなければならないという思いも共有されている。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【「受け手」としても「支え手」としても活動しています】 計画書 P52

R4・5時点

ひきこもりがちであったり、人との交流に苦手意識があったものの、N-ジョイのイベントに参加し、それがきっかけとなりボランティア活動に参加するようになった方をご紹介します。

①知的障がいのあるCさん

市内の障がい者サロンに参加していたCさん。障がい者相談支援センターの相談員やCSWからN-ジョイを紹介され、継続的に利用するようになりました。毎週来られて、皆とおしゃべりができるし、新しい知り合いもできる、同級生との再会もできた楽しいところだと思いながらN-ジョイを利用していたある日、CSWから「お手伝いをしてもらえないか」と声をかけられました。できるかなと思いながら、チラシ配布の準備や食品の仕分けのボランティアを始めました。ボランティアを始めて、他にも自分にできることがあるという自信がついたと笑顔で答えてくれました。

②コミュニケーションに不安のあるDさん

学校の夏休み。母親と長久手温泉ござらっせの帰りに、休憩を兼ねて初めてN-ジョイに立ち寄ったDさん。いろいろ自分についての話を聞かれることが苦手だったので、最初は警戒して参加。でも、スタッフの人が距離感を保ってくれたことから、安心して通うことができました。N-ジョイに通い出して1年後、CSWから「不登校の子のゲーム相手を探しているんだけど、やってもらえない？」と声をかけられました。ゲームの相手ならば、あまり話をする必要もなく行えると思い引き受けました。今日は上手く対応できたかと毎回心配でしたが、関わっている子のお父さんが「今日は息子の笑顔が見られたので良かった」など感想を話してくれたので、続けることができたそうです。

「今はボランティアを休止していますが、これからも困っている人の手助けができればと思っています。少しはにかんだ笑顔で爽やかに答えてくれました。」

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

Cさんは今どうしてる？

R6時点

食品の仕分けのボランティアを月1回続けています。人の役に立つことが嬉しいし、仕分け作業も楽しいので、これからも続けていきたいと話してくれました。

Dさんは今どうしてる？

休学していた大学に復学し、授業以外にサークル活動をしたりと元気に過ごされているとのこと。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

他の利用者さんのケース

R6時点

ケアマネを通じて利用者のひきこもりのご家族の相談があり、N-ジョイを紹介。本人と母でN-ジョイに参加。当初は質問に母が全て答えていたが、参加回数を重ねていくうちに、本人も少しずつ会話するようになった。段々と一人で参加するようになり、猫が好きで飼っていることをきっかけに話が弾むようになった。

その後、CSWから猫の写真をポストカードにして、N-ジョイを利用する他の人にも見てもらうのはいかがでしょうかと提案したところ、やってみることとなった。CSWと一緒にポストカードを作成し、掲示開始。掲示のほか、地域共生ステーションのお祭り参加者のお土産としてポストカードを配布したところ、好評であったことから本人の意欲が向上し、以降市内のイベントでポストカードの配布を継続中。

本人は子どもと接することが苦手とのことで、子ども対象のお祭り等に参加することは難しいと話していたが、長久手市福祉まつりには参加することができた。月1回ペースでN-ジョイに参加を続けており、猫の写真を通して少しずつ地域とのつながりができはじめている。

本人も、ポストカードへのコメントを読むのが嬉しい、これからも作成を続けていくつもりと話している。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

現状は？

R7時点

Nジョイは今年度より引きこもり・不登校の方対象の個別支援の場と変わった。

ある利用者は、働いていた職場が合わず、うつの症状で外に出られなくなることを不安に思い、周囲からの勧めでNジョイを利用していた。

社会福祉協議会の取り組みで畑でのボランティアをしたときに、これからのことを障がい者相談支援センターの職員と話す中で、「何かしなければ」と考えていた。そして、市と障がい者相談支援センターが取り組む「『働く』を通じて一歩を踏み出す取り組み」に挑戦。安心できる場で働く経験が再び社会とつながる新しい一歩となり、その後、A型作業所で働きはじめ、現在も継続中。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【宿題&お昼ご飯の会】

R6時点

民生委員からの紹介で職員が訪問。

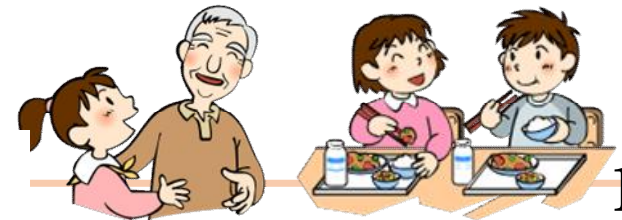
夏休み期間中の長小児童を対象に集会所を使って昼食のふるまいと宿題や遊びの場所を提供。

元々はCSWが仕掛けたもので、長小校区内の気になる世帯の児童を対象に昼食を提供しようというものであった。実際には、問題を抱える抱えないの垣根無く幅広く児童が20名ほど参加し、夏休みの出来事や好きなアニメやスポーツの話などざっくばらんに児童とコミュニケーションを図りながら時間を過ごした。気になっていた世帯で当日参加が得られなかった世帯へはくらし・しごと・つながり支援センターによってご自宅にお弁当を届け様子をうかがった。

昼食は、株式会社王将フードサービスが行う、お子様弁当を子ども食堂等に無償提供する取組を利用した。当日は、CSWのほか、長小校区内の民生委員の有志や、自治会連合会長が児童の相手をしていた。

夏休みの会が好評で、冬休みにも開催希望が多かったことから、冬休みにも同様のイベントを実施した。すぐに定員30名の申込に達した。地域住民のつながりづくりや支援を必要とする世帯の把握の機会として、民生委員や地区社協のメンバー、自治会連合会と協力しながら引き続き同イベントを続けていく予定。

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【宿題&お昼ご飯の会】

R7時点

令和6年の夏休みからスタートしたこの会は、夏休み、冬休み、春休みと続いて開催され、今年度は2年目の実施となった。

自治会連合会や自治会の協力を得て、開催場所も2か所から3か所に増えた。

地区社協委員が主な担い手だが、そのうちの1か所では、シニアクラブとも連携するようになり、王将のお弁当にプラスして、シニアクラブが夏はかき氷、冬には豚汁を作って子どもたちに分った。

参加する子どもたちは、複数回参加する子が多く、担い手との関係が深まり、また子どもたちの自主的な活動も見られるようになっている。

小学校内に地域コーディネーターがいるため、学校にも浸透し、地区社協と学校、シニアクラブの関係が深まることにつながっている。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【地域でつくる子どもの居場所】計画書 P54

R4・5時点

Eさんは、地域の集会所を活用して、放課後の小学生の居場所をつくる活動をしています。毎週平日に2回実施し、Eさんをはじめ地域の人や大学生がボランティアスタッフとして子どもを見守り、話し相手や遊び相手になります。ときには子どもを預けた保護者がボランティアスタッフとして子どもたちの相手します。子どもに放課後どう過ごしてもらおうか悩んでいる保護者の声に応えたいとの思いが活動のきっかけです。

ここでは子どもたちは学校や塾のようなカリキュラムは与えられず、年齢の違うほかの子どもやボランティアスタッフと自由な発想で過ごす中で、社会性を育んでいくのです。初めて来る子どもや外国語を話す子どもにもお構いなしに接する子どもたちのたくましさにより日々Eさんは感心しています。ボランティアスタッフは子どもの様子や感じたことを記録として残して情報を共有し、子どもたちに気になる変化があれば保護者へそれとなくたずねてみます。悩み相談にももちろん応じています。保護者にとっては、送迎時にほかの保護者とのコミュニケーションの場にもなっています。子どもの居場所づくりをきっかけに、地域の人に役割が生まれています。

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

令和4・5年度と比べて良くなった、又は良くないと感じることは？

(ご自身の活動のこと、周辺の地域の様子など)

R7時点

- ・子どもの年齢が上がるにつれ、ここを卒業していく子がいる。保護者による送迎が条件となっているため「親の都合で卒業」ということもあるかもしれないが、基本的には他で居場所を見つけるのも、留守番ができるようになるのも子の成長としては喜ばしいことである。
- ・登録する子どもを募集中であり、自治会や学校の協力を得られつつある。組長会でのチラシ回覧、小学校でのチラシ配布、新一年生への入学説明会でもチラシ配布をした。
- ・自治会の加入率が半減した。目に見えるメリット、お金の使い道をすごく気にされる。「災害時には地域のつながりが」と説明しても、目に見えないものにお金や時間をかけたくないような様子を感じる。
- ・自治会の加入促進のためにポスティングや地域行事に注力しているが、なかなか結果に結びつかない。自治会どうしの連携も必要だと思う。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

活動の継続について感じていることは？

(費用面、運営側として関わってくれる人、後継者など)

- ・活動開始5年目になるが、社協のサロン助成金や寄付で活動を維持できている。
- ・電気代が高騰しているが、活動に対する自治会からの理解が得られ、自治会に支払う集会所の電気代相当分の使用料は据え置かせていただいている。
- ・個人での活動継続はいつか限界が来てしまうので、できれば自治会等が主体で運営されると継続性は確保されるだろう。
- ・自治会活動をよく把握するようにして、自身の活動と関わりのもてる内容がないかアンテナを張っている。
- ・ボランティアスタッフは社協ボラセンを通じて大学生に来てもらっている。大学生と子どもは上下関係ではなく「ななめの関係」として近所の兄さん姉さんとして関わり、お互いに刺激になる。
- ・大学生とは「気づき帳」という連絡ノートで子どもの様子などを共有している。書かれた内容をもとに大学生ともコミュニケーションをとっている。

R7時点



地域ではどんなことが起きているんだろう？

担い手の発掘について大切だと思うことは？

(地域に求めること、行政や社協に求めること)

・自分の子どもが子ども会に入っていたとき、地域の方(近所のおじさんの存在)が一生懸命サポートしてくれた。それを見て「自分もいつかそうになりたい」という意識があった。退職後には自分が仕事で得た経験や知識を地元に戻元したいと感じていたのでこの活動が始まった。地域の方がどうあるべきかについてはなかなか言いづらい。

・市のいいね賞について、受賞者の発表があるが、どんな理由で貰えたのか、どんな活動をしているのかもっと詳細に紹介していいと思う。それを見て自分にもできることがあるのではと感じてもらうことが大切。

R7時点



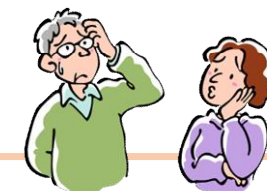
地域ではどんなことが起きているんだろう？

【民生委員一斉改選における候補者探し】

R7時点

委員候補者をどう探したか

- ・まちづくり協議会役員、自治会役員、民生委員OBOGに声をかけ情報収集した。
- ・現役民生委員は、定例会で全体に依頼しても反応が無いが、個別で聞くと結構情報を出してくれた。
- ・地域共生ステーションにも聞いてまわった。
- ・地域行事(祭り、防災関連等)に出て声かけした。
- ・増員予定であった地区については特に「どうして民生委員が必要なのか」という説明をして理解を得ようとした。
- ・一斉改選の令和7年度に入る前から早めに声かけした。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【民生委員一斉改選における候補者探し】

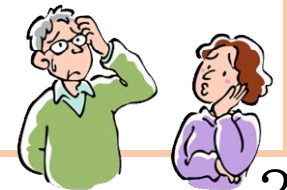
R7時点

委員候補者を探すにあたって苦労したこと

- ・今回は各中校区民児協の会長を主軸として動いたため、会長はかなり忙しかった。
- ・地域住民に説明してまわる中で、意外と民生委員の職務内容が知られていないということが分かった。
- ・「大変そう」「自分で後任を探さないと辞められない」というネガティブなイメージが先行している。
- ・情報を辿っていこうとしても「私は地域の人のことよく知らないから」と言われ、紹介も難しかったりする。

理想の探し方

- ・現役委員は退任時ではなく任期中から「地域の中でふさわしい人はいないか」という目線で活動。
- ・自治会にも「自分たちのことなんだ」という当事者意識を持ってもらう。他自治体では自治会推薦制であったり、自治会と一緒に候補者を探している。
- ・退任委員、自治会、社協、行政で探せると良い。
- ・地域のボランティア団体も、中にふさわしい人がいたり、地域の人々の情報を多く持っていることがあるので協力を仰ぎたい。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【民生委員一斉改選における候補者探し】

R7時点

民生委員のなり手確保のために行政や社協に求めること

- ・自治会へのアプローチにおいては、民生委員制度の説明の役割は行政に担ってほしい。
- ・民生委員活動のPRは民児協と行政両方でやれると良い。
- ・民生委員活動においてCSWの存在には非常に助けられている。一緒に現場で動いてくれるし、フットワークも軽いし、地域の課題に合わせた活動等の提案もしてくれる。ただし、地区社協のあり方(特にメンバー構成)は変えるべき。今はほぼ民生委員で構成。警察、学校、ボランティア団体等が必要では？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

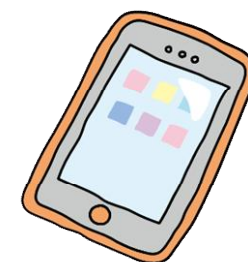
【スマホのお悩み共有会】

R7時点

南共生ステーションで実施している「スマホのお悩み共有会」は、月に2回開かれています。

これは講師から教わる講座ではありません。

お店に行くほどではないけれど、ちょっと聞いてみたい・・・そんな悩みを気軽に共有することを目的に開催しています。多いときで6名ほどの地域の人が集まって「ラインの操作が難しい」「インスタグラムを開設したい」「新しいアプリを入れたよ」といった会話が交わされています。「誰かが特定の人を支援する」ということではなく、「お互いが気軽な形で支え合う」そんな集まりです。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【健康体操】

R7時点

活動を継続していて良くなったと感じることは？

(ご自身の活動のこと、周辺の地域の様子など)

- ・参加がどんどん増えている。毎回30～40人参加。口コミだけで広がっている。
- ・市や社協と連携して健康講座など色々なプログラムを実施できているので、マンネリ化せず継続して参加してくれる人が増えている。

課題に感じていることは？

(ご自身の活動のこと、周辺の地域の様子など)

- ・今はほぼ一人で運営中。活動をバックアップしてもらえる次世代を見つけたい。
- ・市が予算をかけてフレイル予防を推進してもらえると良い。介護福祉等の予算削減につながる。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【健康体操】

R7時点

担い手の発掘について大切だと思うことは？

(地域に求めること、行政や社協に求めること)

- ・ボランティア育成の環境づくりが重要。市のバックアップで育成講座などが行われると良い。
- ・市内に健康体操に関連する活動をしている人がいれば連携したい。
- ・地域共生ステーション間で連携して、活動が市内全域に広げられたら嬉しい。

その他、地域のことで印象に残っていることは？

- ・初めて参加する人に対して敷居を低くしている。参加申込、欠席の連絡は不要で誰でも気軽に参加できる活動を心がけている。
- ・健康体操を通じて心も健康になり、体操卒業後もデイサービスなどに前向きな気持ちで移行することができるという声も聞いておりとても嬉しい。



計画の推進

※資料1 P11再掲

地域福祉計画としての推進について

周知・啓発

地域福祉について考え合う場の創出

地域福祉講演会・
ワークショップなど

進行管理

地域福祉がどれだけ進んだか ≠ 事業実績(人数・件数等)による点数付け

地域への影響や成果(市民や関係機関の意識や行動に起きている変化、連携)



地域の方への聞き取り、現場確認

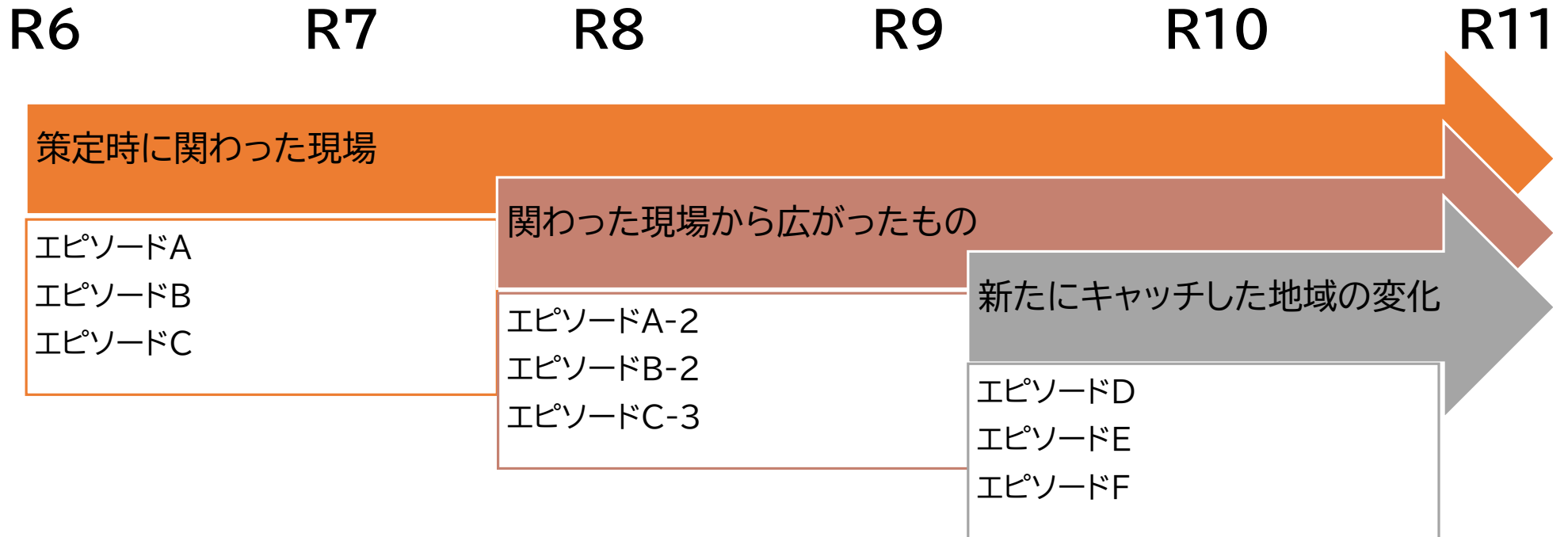
市民意識調査

- ・市民が感じる地域のつながりの強さ
- ・周囲へ助けを求められていると感じているか

庁内、委員会で共有、蓄積



地域ではどんなことが起きているんだろう？



地域の変化の様子について共有、蓄積していくことで、計画改定時に数値では測れない評価の材料として用いたい。

おわり
